

鉄骨構造標準図(1)

※修正箇所は下線を引くこと

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
 (a) 新構造設計特記仕様その1による。
 (b) 本標準図はベースプレートを除き鋼材の厚さが40mm以下の工事に適用する。但し、ベースプレートの厚さは除く。
 (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の検査結果を添付する。
- (2) 工作一般
 (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る。
 (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
 (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする。
- (3) 高力ボルト接合
 (a) 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
 (b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、一様にさびを発生させた状態とする。但しショットブラスト、グラインダーによる処理で表面荒さが、50µm Rz以上である場合は、さびの発生は要しない。
 (c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。
- (4) 溶接接合
 (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
 (b) 溶接技能者
 溶接技能者は施工する溶接に適用するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
 (c) 溶接機器
 (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
 (ロ) アークエアガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
 (ハ) セルフシールドアーク溶接機 (ヘ) 溶接棒乾燥機
 (d) 溶接方法
 被覆アーク溶接(アーク手溶接、MC、MP) ガスシールドアーク溶接(半自動溶接、GC、GP)
 セルフシールドアーク溶接(半自動溶接、NGC) アークエアガウジング(AAG)
 (e) 溶接姿勢
 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
 (f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
 (イ) 仮付位置
 組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。
 (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。
 (g) 溶接施工
 (イ) エンドタブ
 ・完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
 ・エンドタブの材質は、母材と同質とする。但し、鉄骨製作に十分な実績があり、かつ溶接部の品質が十分確保できると判断される場合には監督者の承認を受けて他の方法とすることができる。
 ・エンドタブの長さは、MC:35mm以上 NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。
 ・プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監督者の承認を得る。
 (ロ) 裏当て金
 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監督者の承認を得て変更することができる。
 (ハ) スカラップ半径はr1=30~35mmとr2=10mmのダブルアールとする。但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはr1=20mmとする。
 (ニ) ノンスカラップ工法
 (ホ) 裏はつり
 規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける。
 (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う
- (5) 塗装
 コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

2. 溶接規準図 (注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位:mm)

(1) 隅肉溶接

t	≤16
t	7以下 8~10 11~13 14~16
S	6 7 10 12

・但し片面溶接の場合はS=tとする。
 ・tはt1, t2の小なる方とする。
 ・余盛は(1+0.1S)mm以下とする。
 ・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい。

(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所注意)

R ≤ 2
 t/4 ≤ f ≤ 10
 t ≤ t1

t	16 < t ≤ 40
溶接姿勢	F.V

(3) 完全溶込み溶接 (平継手 T形継手)

隅肉溶接

t/4 ≤ f ≤ 10

t	6 ≤ t ≤ 40
溶接姿勢	F.V

溶接機 AAG

T形溶接

t/4 ≤ f ≤ 10

のど厚 t mm	余盛の高さ mm
t ≤ 4	1
4 < t ≤ 12	2
12 < t ≤ 19	3
19 < t ≤ 40	4
溶接姿勢	F.V

溶接機 AAG

部分溶込み溶接

0 < f ≤ 3.0 (但し、t ≥ 15 mm の時 3.0mm を 4.0 mm とする)
 t2/4 ≤ a ≤ 10 (平継手で板厚が異なる時)
 θ = 45°
 R ≤ 2
 G = 0 ~ 2 (裏はつり後裏溶接)

t	6 < t ≤ 40
溶接姿勢	F.V

溶接機 AAG

完全溶込み溶接

0 < f ≤ 3.0 (但し、t ≥ 15 mm の時 3.0mm を 4.0mm とする)
 θ = 45°
 R ≤ 2
 G = 0 ~ 2 (裏はつり後裏溶接)

t mm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6 < t < 12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12 ≤ t ≤ 19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
19 < t ≤ 40	35°	9	9	0	35°	9	9	0
溶接姿勢					F.V			

(4) フレー溶接

寸法 (mm)

φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレー溶接長は、鋼板に接する全長とする。
 ・9 mm ~ 16 mm は1パス以上、19 mm 以上は2パス以上とする。
 溶接角度 θ は 30° ~ 40° とする。

●BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

ダイヤフラム厚は、接合する梁の最大厚の2サイズアップ以上とする。
 < 柱材: BCR295, BCP325を使用する場合 >
 ダイヤフラムは、柱フランジ厚 16 mm未満の場合 SN490C SN490B
 柱フランジ厚 16 mm以上の場合 SN490C を使用する。

⑦ ※ はりフランジは、通しダイヤフラムの厚み(t)の内部で溶接すること。

平面詳細

内ダイヤフラムの場合には柱の角のRに接しないこと。

ガス抜き φ=20

スカラップ部分は回し溶接する。

25以上かつエンドタブが交互に当たらぬこと。

① ※ t ≤ 16 mm 場合の溶接は、②・又は③~⑤とする。

●鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料と入熱量・パス間温度	
	溶接材料	入熱(kJ/cm) パス間温度(°C)
400N/mm ² 級鋼	JIS Z 3312 YGR-11, 15	40 以下 350 以下
	YGR-18, 19	
	JIS Z 3315 YGA-50W, 50P	
	JIS Z 3312 YGR-11, 15	
490N/mm ² 級鋼	JIS Z 3312 YGR-11, 15	40 " 350 "
	YGR-18, 19	
	JIS Z 3315 YGA-50W, 50P	
	JIS Z 3312 YGR-11, 15	

注) STKR, BCR, BCP材はJIS Z 3312、のみ使用可
 「新構造設計特記仕様その1 6 鉄骨工事(2) 口認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

●I-I H型

スカラップ部分は回し溶接する。

① ※ t ≤ 16 mm 場合の溶接は、②・又は③~⑤とする。
 ○ ※ ※ 印は設計者が記入すること。

●B.H方式

① ※ t ≤ 16 mm 場合の溶接は、③~⑤とする。

株式会社吉川建築設計事務所 吉川 泰尊
 青森県知事登録第1770号
 一級建築士 大臣登録 第359821号
 構造設計一級建築士 交付番号 第10689号

1級建築士事務所 青森県知事登録第A1-1642号

株式会社 **イクラン** 一級建築士事務所

門前 孝治 1級建築士登録第213201号

〒036-8353
 青森県弘前市下館町11
 TEL 0172-38-1900
 FAX 0172-39-6168

縮尺 1:—

設計 門前

製図

設計年月日 2023.11.

検図

承認 門前

令和8年度 弘前市駅前住宅1期棟

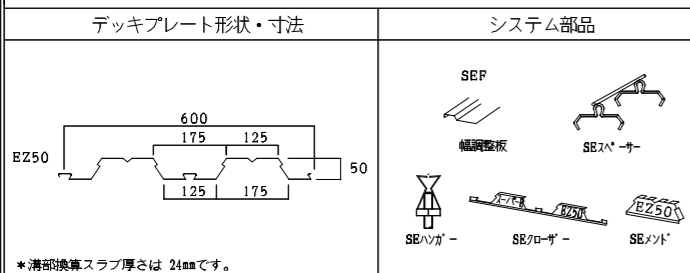
工事名称 屋上防水・外壁等改修工事

図面名称 鉄骨構造標準図(1)

NO. S-06

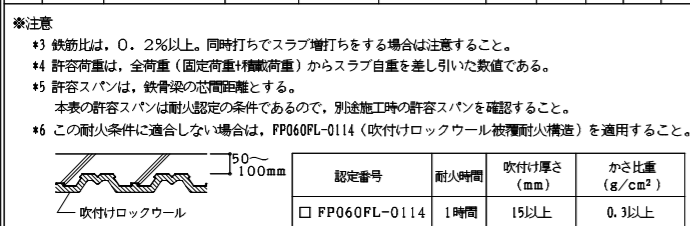
1. 設計

Table with columns for Deck Plate, Concrete, and Welding Mesh specifications. Includes items like 品名, 仕様, and 種類.



2. 耐火設計 (耐火補強筋不要仕様)

Table for fire design specifications including 耐火区分, 品名, 認定番号, and 認定条件.



3. 施工時許容スパン (単位: m)

Table showing span limits for different deck thicknesses (60mm, 70mm, 80mm, 90mm) under various support conditions.

4. 施工

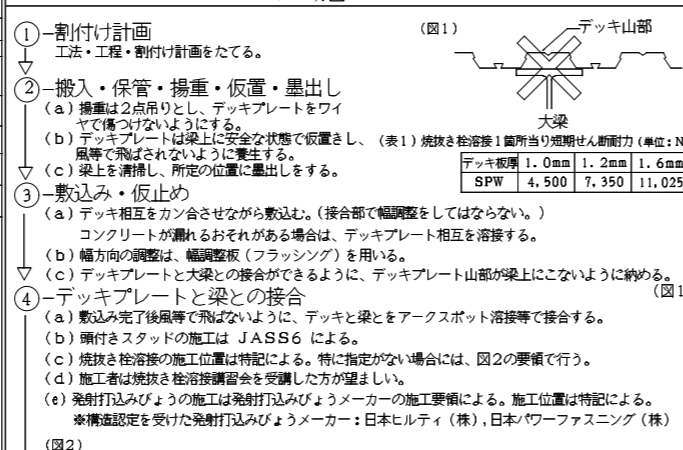
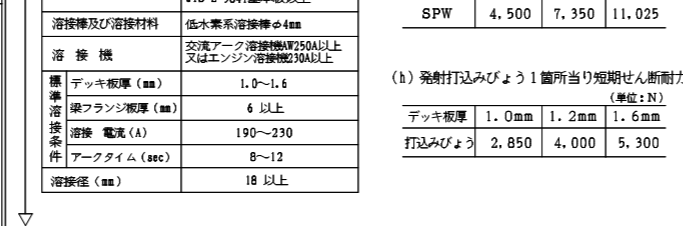
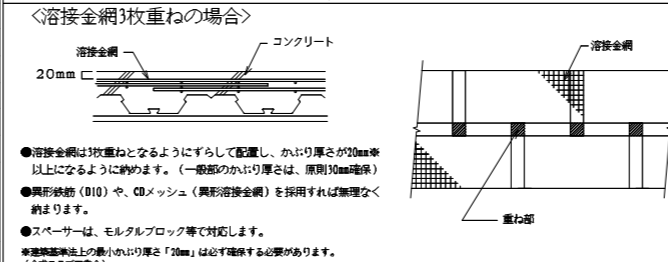


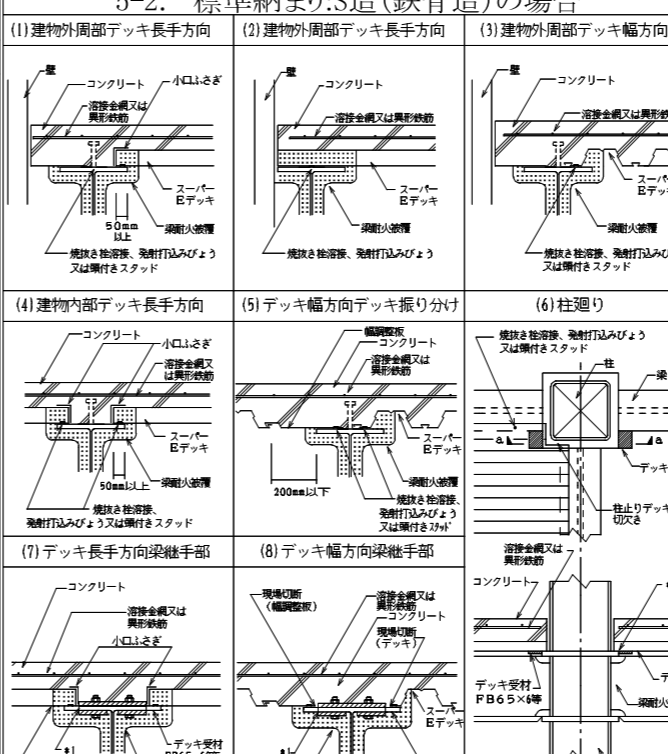
Table for welding mesh specifications including 項目, 溶接方法, and 溶接条件.



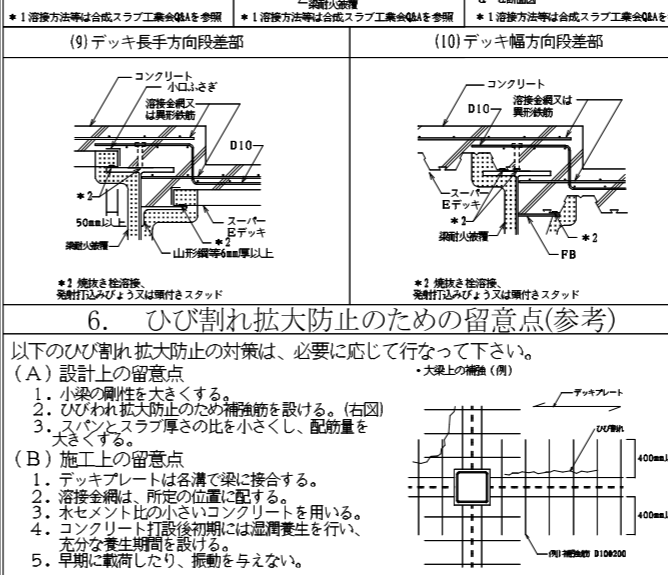
5-1. 溶接金網納り例



5-2. 標準納まり: S造(鉄骨造)の場合



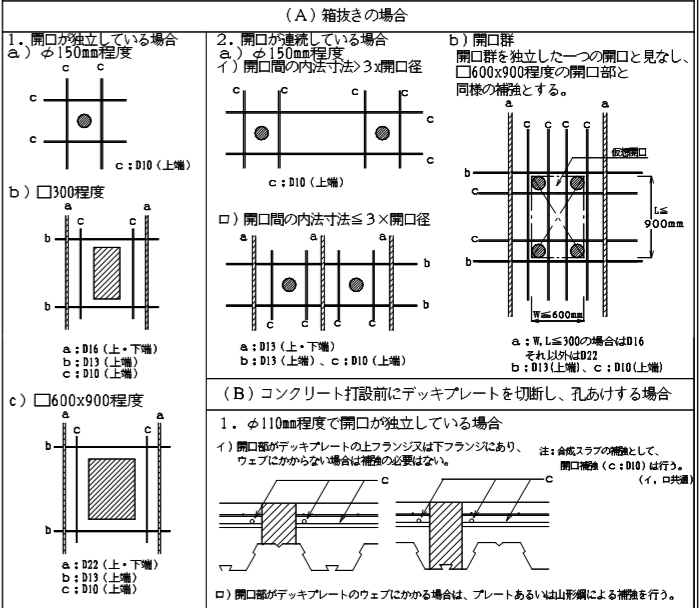
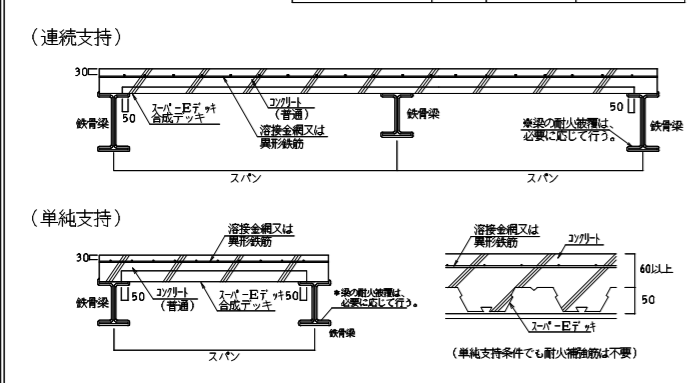
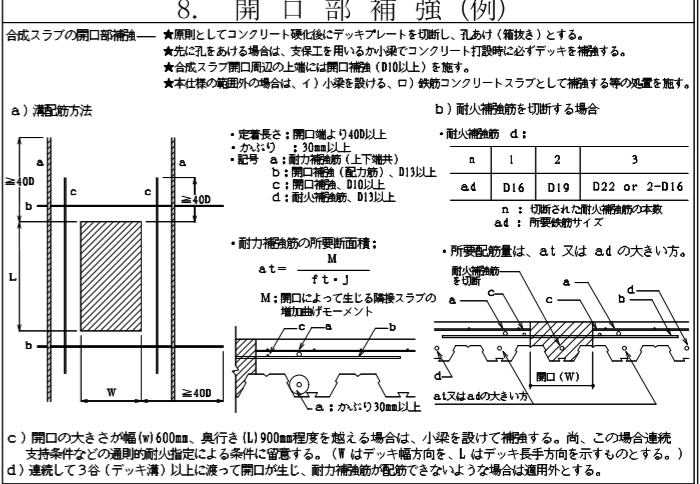
6. ひび割れ拡大防止のための留意点(参考)



7. e-works+開口緩和 (EZ50)

Table for opening relief specifications including 項目, 記号, and 適用範囲. Includes diagrams for opening types and dimensions.

8. 開口部補強(例)



ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用) 2021/8

大臣認定 M57L-0404, 0180 (Gタイプ用ベースプレート)
 MBLT-0042~0046 (アンカー用ボルトセット)
 BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)
 BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)

本工法の設計・施工は、構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 5 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄骨コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質 (1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136 TNC鋼	HAB (大臣認定取付材)	大臣認定取付材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	-	メートル並目	メートル並目	メートル並目	-	-
備考	SN490B相当板厚40mm以下	降伏比70%以下	-	強度区分	SM490A	SS400

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HGW490b HGW490st (大臣認定取付材)	HAB (大臣認定取付材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	-	メートル並目	メートル並目	-	-
備考	SN490B降伏比70%以下	降伏比70%以下	-	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (M57L-0404, 0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046)
 ※3 M72は細目ねじ

(2) ベースプレート下面のモルタル

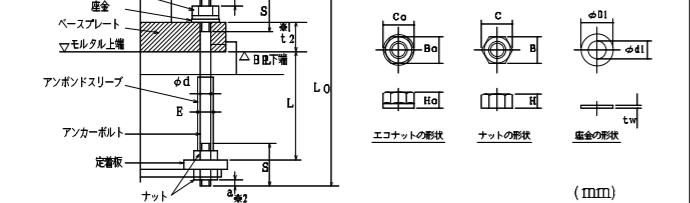
後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮モルタル*
 中心塗部分モルタル 無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)
 強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート 日本建築学会「JASS 5 鉄骨コンクリート工事」に適合する普通コンクリート
 設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
 柱 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

2. アンカーボルトのセット寸法

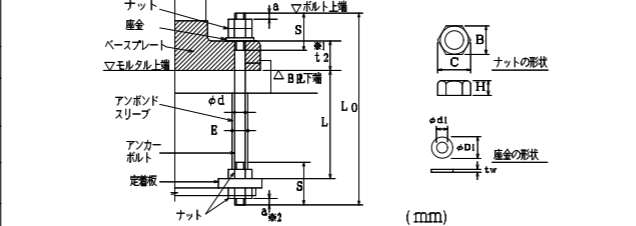


ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリプ		エコナット		ナット		座金	
	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ
M24	24	3	24	10	24	10	24	10	24	10
M30	30	3.5	30	13	30	13	30	13	30	13
M36	36	4	36	16	36	16	36	16	36	16
M42	42	4.5	42	18	42	18	42	18	42	18

※1 t_2 はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。
 ※2 a 寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。施工時は、ねじ山が最低3山ナットの外に出るように余長を確保してください。
 ※3 上段はGB型式及びGM型式のアンカーボルト4本タイプ、下段はそれ以外のエコタイプの場合の寸法です。

注意 エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしており、ゆるみ止め措置としてコンクリートスラブで密着してください。
 コンクリートによる密着を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め措置が必要です。
 その場合、せん断耐力が変化する可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
 アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



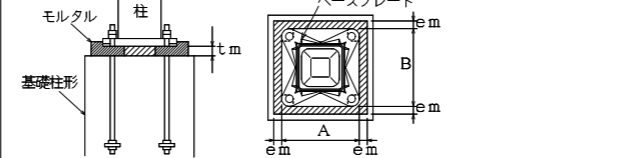
ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリプ		ナット		座金	
	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ	軸径	長さ
M24	24	3	24	10	24	10	24	10
M30	30	3.5	30	13	30	13	30	13
M36	36	4	36	16	36	16	36	16
M42	42	4.5	42	18	42	18	42	18
M48	48	5	48	22	48	22	48	22
M56	56	5.5	56	24	56	24	56	24
M64	64	6	64	28	64	28	64	28
M72	72	6	72	30	72	30	72	30

注意 Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
 一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込み等のゆるみ止め措置が必要です。
 (一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)	
ねじの呼び	M24 M30 M36 M42 M48 M56 M64 M72
エコタイプ用	38 44 50 57 - - - -
Gタイプ用	- 38 45 53 61 70 79 87

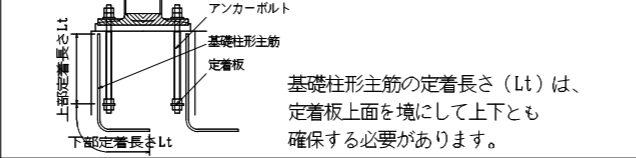
ねじの呼び	4本タイプ用				8本タイプ用				12本タイプ用			
	厚さ	外径	内径	長さ	厚さ	外径	内径	長さ	厚さ	外径	内径	長さ
M24	16	70	27	-	16	90	33	9	16	90	33	9
M30	16	90	33	9	16	110	39	9	16	110	39	9
M36	19	100	39	9	19	120	45	9	19	120	45	9
M42	22	120	45	9	22	140	52	9	22	140	52	9
M48	25	140	52	9	25	160	60	9	25	160	60	9
M56	28	160	60	9	28	180	68	12	28	180	68	12
M64	32	180	68	12	32	200	76	12	32	200	76	12
M72	-	-	-	-	36	220	84	14.5	36	220	84	14.5

3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (tm)	標準寸法 tm=50mm	許容範囲 30 ≤ tm ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (em)	em ≥ 30mm	許容範囲 em ≥ 25mm

4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)

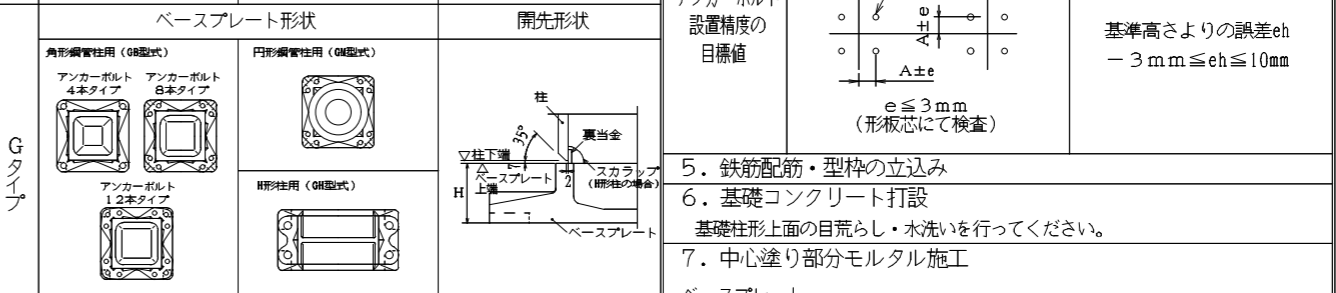
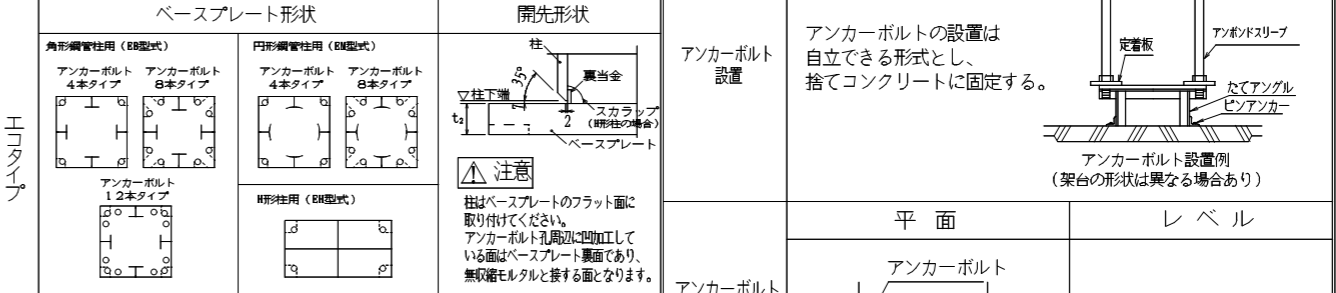


基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面に境にして上下とも確保する必要があります。

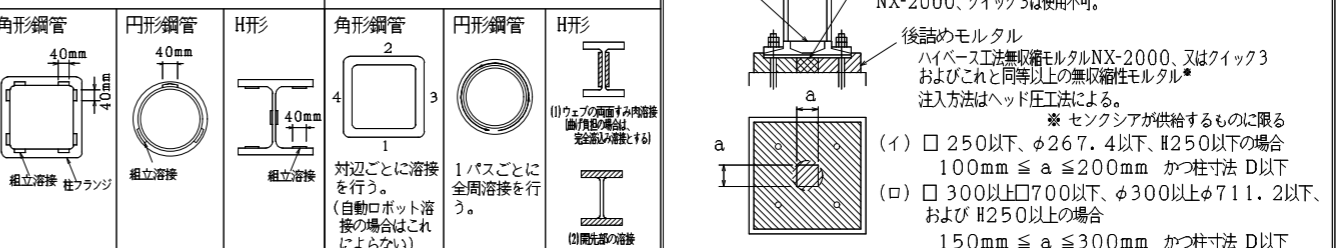
工場加工

1. 溶接材料
 被覆アーク溶接 低木素系4.90N/mm² 級高張力鋼用 (JIS Z3211, JBZIS Z3212) 相当以上
 ガスシールドアーク溶接 軟鋼及び4.90N/mm² 級高張力鋼用溶接用ノリドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上
 ※高強度母材を用いる場合、JASS5等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)
 ※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接
 開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考



3. 組立溶接 4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。
 余盛 溶接部はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。
 高さ 余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。
 H形柱の溶接 エンドタブの取付とH形柱ウェブのすみ肉溶接
 柱ウェブ エンドタブ ハイベース ウェブ突出部

注意 柱の溶接時にベースプレートとの組合せによってはベースプレートが溶接熱によって曲ることがあります。

6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。
 不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。
 (2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

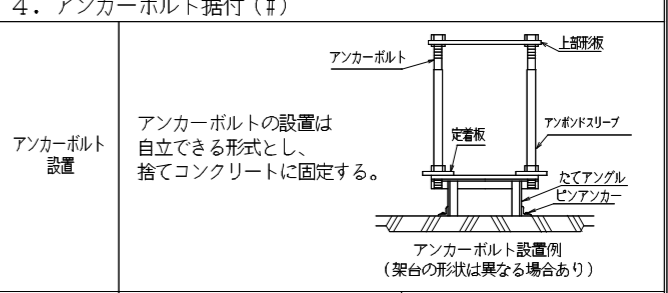
注意 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
 2. アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
 3. 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちさすやコンクリートが付着しないようねじ部の保護養生をしてください。
 4. 建て入れ直し用のワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
 5. 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

センクシア株式会社 URL <https://www.senqcia.co.jp/>

本社 TEL 03-4214-1932	関東 TEL 027-322-9411	関西 TEL 06-6395-2133
札幌 TEL 011-708-1177	中部 TEL 052-582-3356	中国国 TEL 082-240-1630
東北 TEL 022-213-5595	北陸 TEL 076-233-5260	九州 TEL 092-452-0341

現場施工 (#): センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設
 柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
 2. 墨出し
 3. アンカーボルト搬入 (#)
 4. アンカーボルト据付 (#)

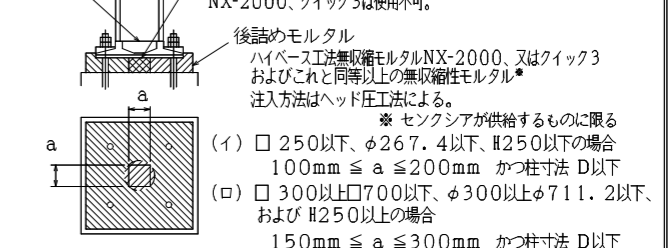


アンカーボルト設置 アンカーボルトの設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。
 アンカーボルト設置精度の目標値
 平面 レベル
 基準高さよりの誤差 eh
 $-3 \text{ mm} \leq eh \leq 10 \text{ mm}$
 $e \leq 3 \text{ mm}$ (形ばりにて検査)

5. 鉄筋配筋・型枠の立込み 6. 基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル NX-2000、クイック3は使用不可。
 後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮モルタル*
 注入方法はヘッド圧入法による。
 ※センクシアが供給するものに限る
 (イ) □ 250以下、φ267.4以下、H250以下の場合 100mm ≤ a ≤ 200mm かつ柱寸法 D以下
 (ロ) □ 300以上□700以下、φ300以上φ711.2以下、および H250以上の場合 150mm ≤ a ≤ 300mm かつ柱寸法 D以下
 (ハ) □ 750~□1200、φ750~φ1016の場合 300mm ≤ a ≤ 500mm

中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生
 基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

8. 鉄骨建方 9. モルタル注入枠設置 (#)

アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。
 後詰めモルタル充填 (#) 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30°回転、許容差 ±10°)

10. アンカーボルト締付 (#)

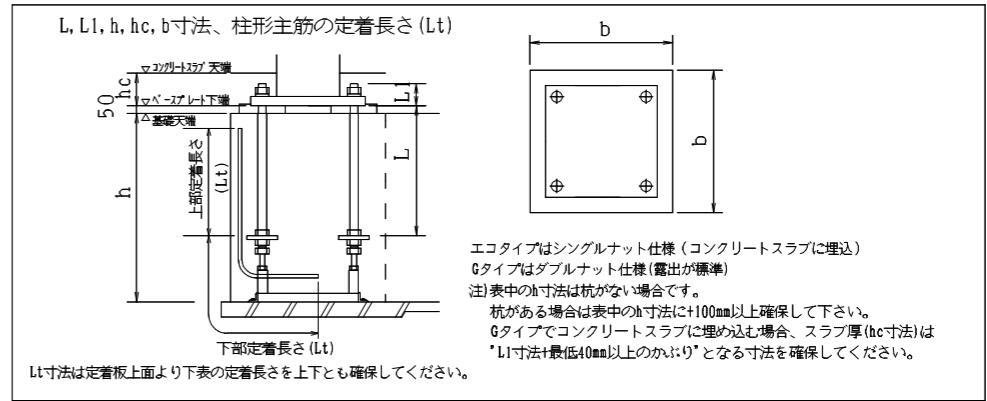
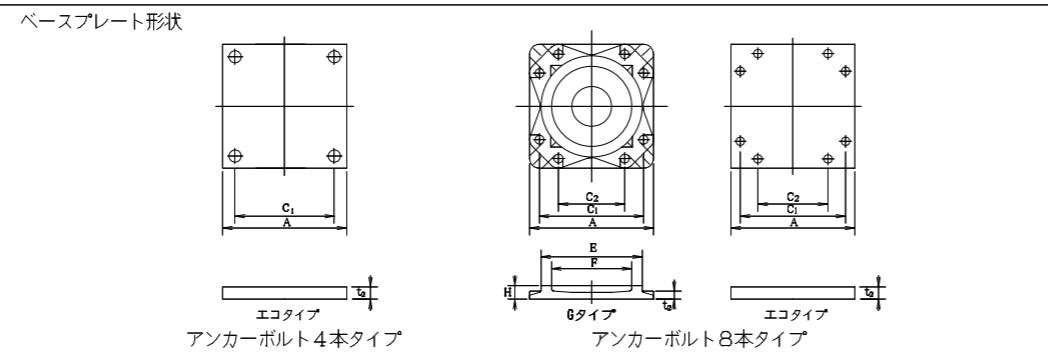
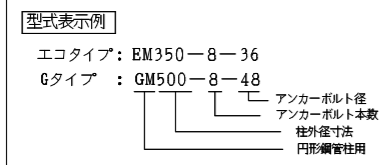
アンカーボルト締付確認 (#) ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。
 11. モルタル注入枠取り外し
 施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

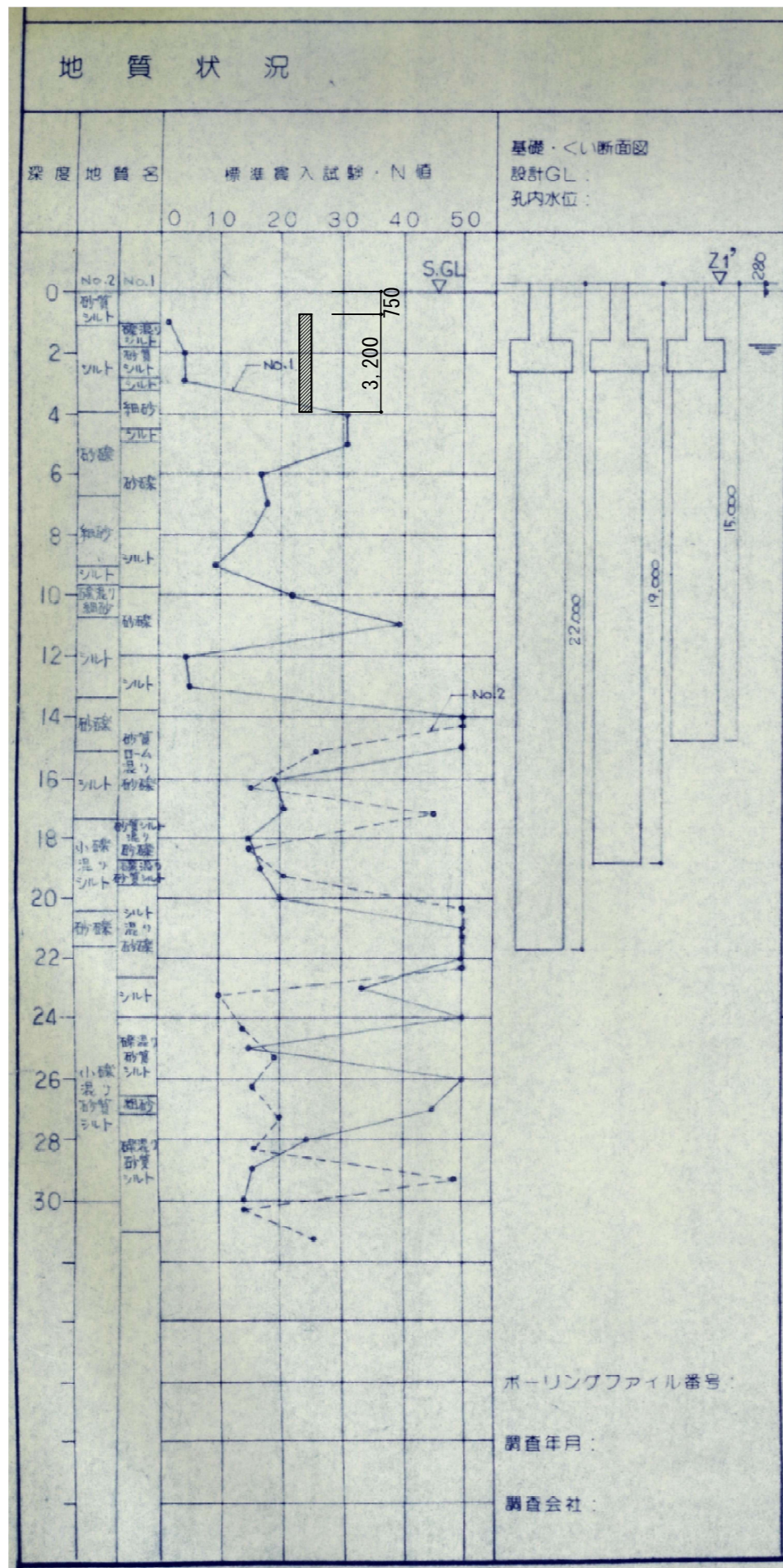
株式会社吉川建築設計事務所 吉川 泰尊
 青森県知事登録第1770号
 一級建築士 大臣登録 第359821号
 構造設計一級建築士 交付番号 第10689号

ハイベースNEO工法 各種寸法及び基礎柱形設計例 (Fc21の場合) (ハイベースNEO工法Gタイプは、S造及びCFT造に適用)
 〈円形鋼管柱用 φ190.7～φ1016〉 (ハイベースNEO工法エコタイプは、S造及びCFT造に適用)

大臣認定 NSTL-0404, 0180 (Gタイプ用ベースプレート)
 MBLT-0042～0046 (アンカーボルト)
 BCJ評定 BCJ評定-ST0058 (Gタイプ) 本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書JASS6鉄骨工事、建築工事標準仕様書・
 BCJ評定-ST0059 (エコタイプ) 同解説JASS5鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

2022/10





2期棟設計時ボーリングデータ

※ 杭耐力について
杭打設時に所定の耐力(Ra=154kN/本)を確保されていることを、全数確認する。

構造	株式会社吉川建築設計事務所 吉川 泰尊
	青森県知事登録第1770号
	一級建築士 大臣登録 第359821号
	構造設計一級建築士 交付番号 第10689号

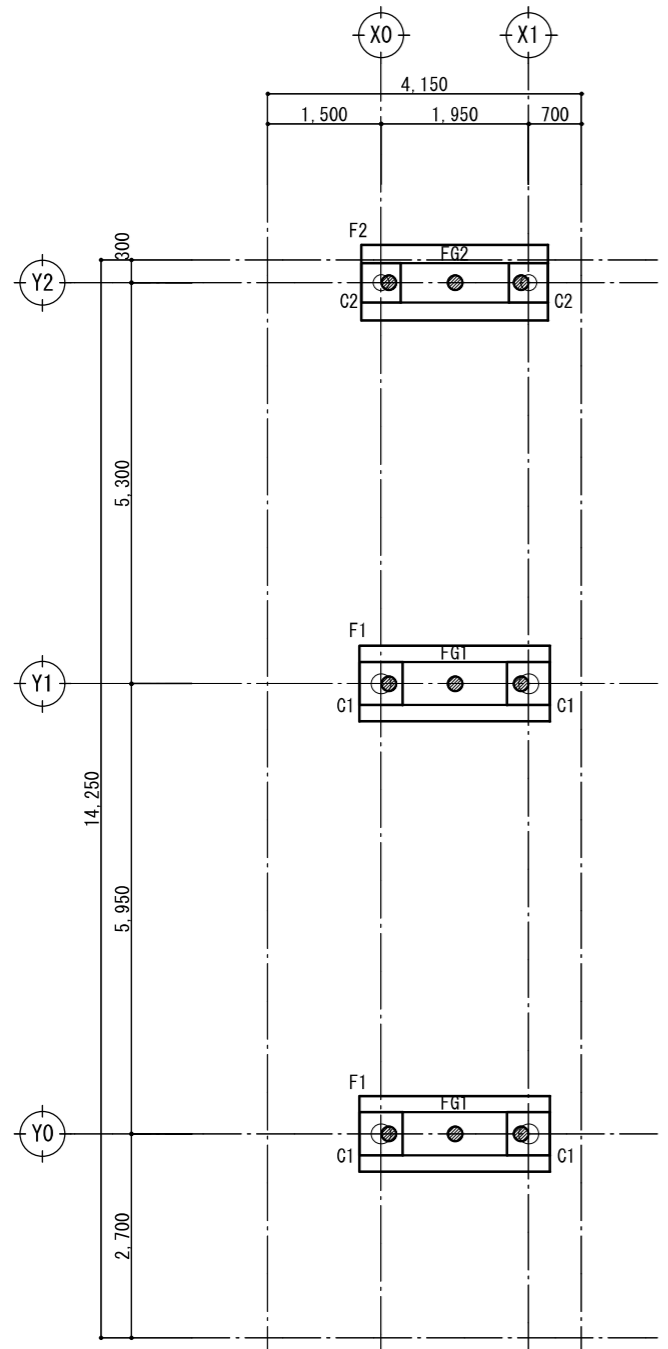
1級建築士事務所 青森県知事登録第A1-1642号
 株式会社 **イクラン** 一級建築士事務所
 門前 孝治 1級建築士登録第213201号

〒036-8353
 青森県弘前市下鞆町11
 TEL 0172-38-1900
 FAX 0172-39-6168

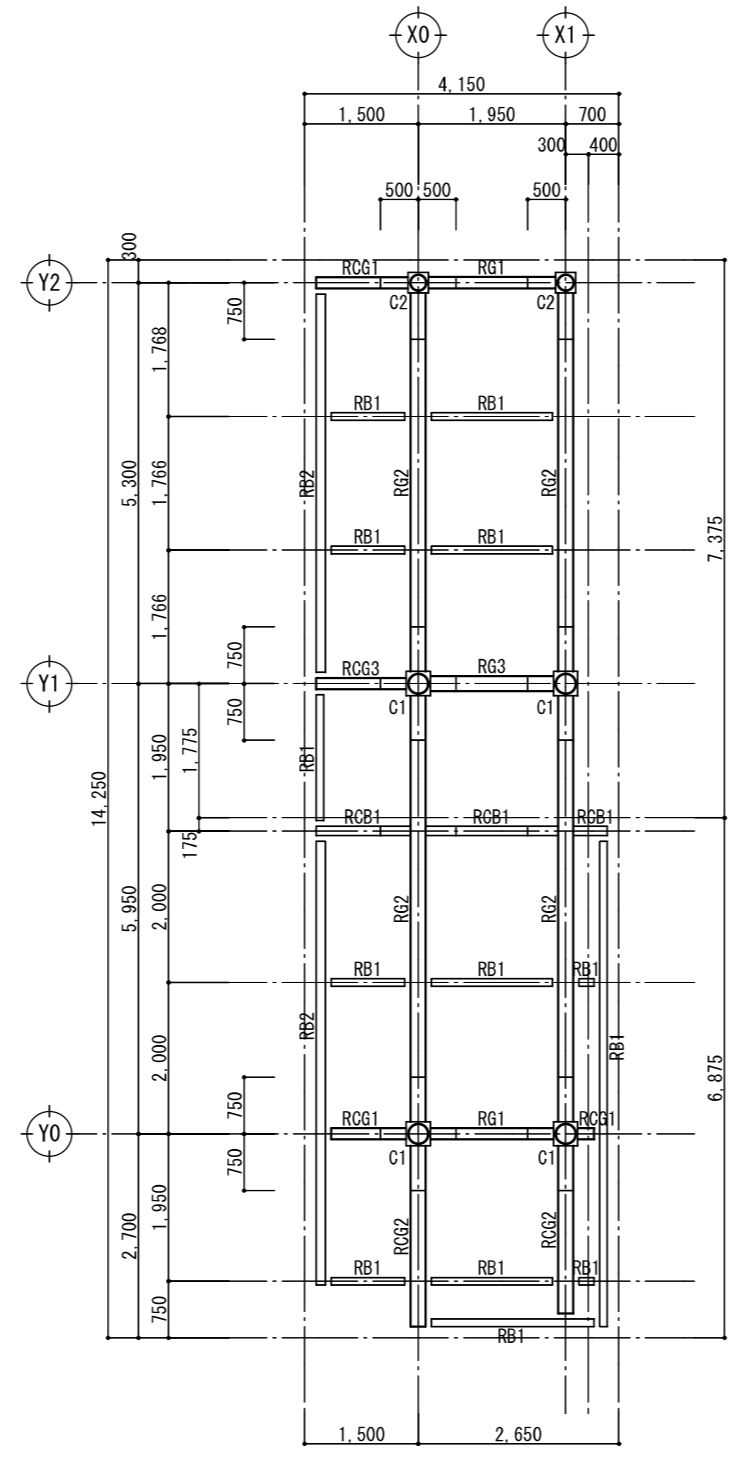
縮尺 1:—
 設計年月日 2023.11.

設計 門前
 検図
 承認 門前

令和8年度 弘前市駅前住宅1期棟
 工事名称 屋上防水・外壁等改修工事
 図面名称 地盤調査資料



基礎伏図 S=1:100



梁伏図 S=1:100

杭仕様			
基礎符号	F1・F2		
施工法	ガイアF1パイル工法		
杭頭位置	設計GL-0.75m		
杭径	(杭頭部上杭)	(下杭)	(羽根部)
	杭径 φ190.7mm 板厚 t=7.0mm	杭径 φ190.7mm 板厚 t=7.0mm	翼径 φ500mm 拡翼厚 t=19mm
杭種	STK400	STK400	SS400
杭長	L=1.5m	L=1.7m	—
杭耐力	長期Ra=154KN/本		
杭本数	9本		
杭頭接合部	杭径1D以上飲み込みタイプ		
杭頭埋込み長	基礎底~200mm		

※杭打設時に所定の耐力を確保されていることを全数確認

柱リスト		※=大臣認定取得品 (HAB材) MLTB-0042~0046						
符号	C1			C2				
部材	○-267.4×9.0 (STK400)			○-216.3×6.0 (STK400)				
有効細長比	X	λ= 50.0	Y	λ= 87.2	X	λ= 59.3	Y	λ= 104.2
柱脚形状								
断面図								
型番	ハイバースNEO型式-EM-250-4-24			ハイバースNEO型式-EM-216-4-24				
B. PL	370×370×32 (SN490B)			310×310×32 (SN490B)				
A. BOLT	4-M24 (※)			4-M24 (※)				
ポスト柱断面								
B×D	570×570			520×520				
主筋	8-D16			8-D16				
HOOP	□-D13-@150			□-D13-@150				
TOP. HOOP	2-D13			2-D13				

株式会社吉川建築設計事務所 吉川 泰尊
 青森県知事登録第1770号
 一級建築士 大臣登録 第359821号
 構造設計一級建築士 交付番号 第10689号

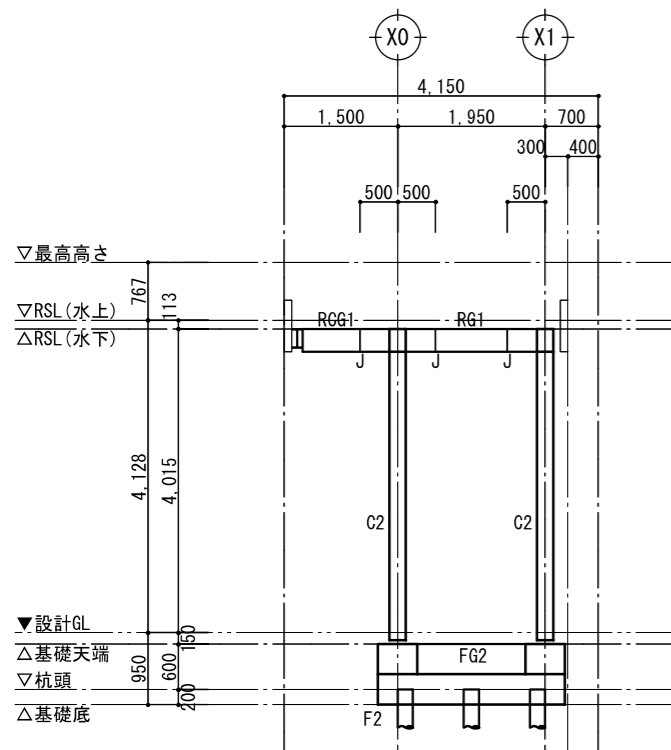
1級建築士事務所 青森県知事登録第A1-1642号

 株式会社 エクラン 一級建築士事務所
 門前 孝治 1級建築士登録第213201号

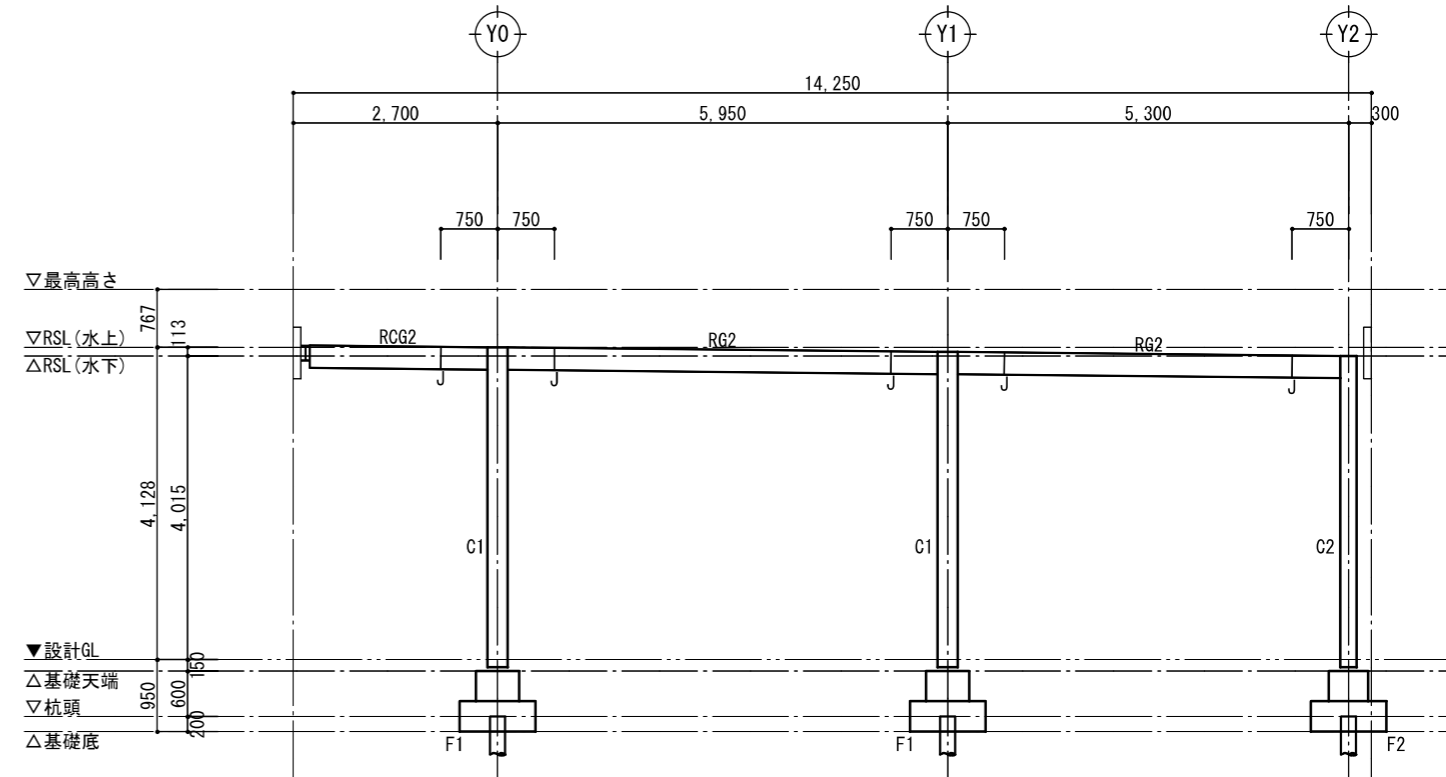
〒036-8353
 青森県弘前市下館町11
 TEL 0172-38-1900
 FAX 0172-39-6168

縮尺 1:30
 設計 門前
 設計年月日 2023.11.
 検図
 承認 門前

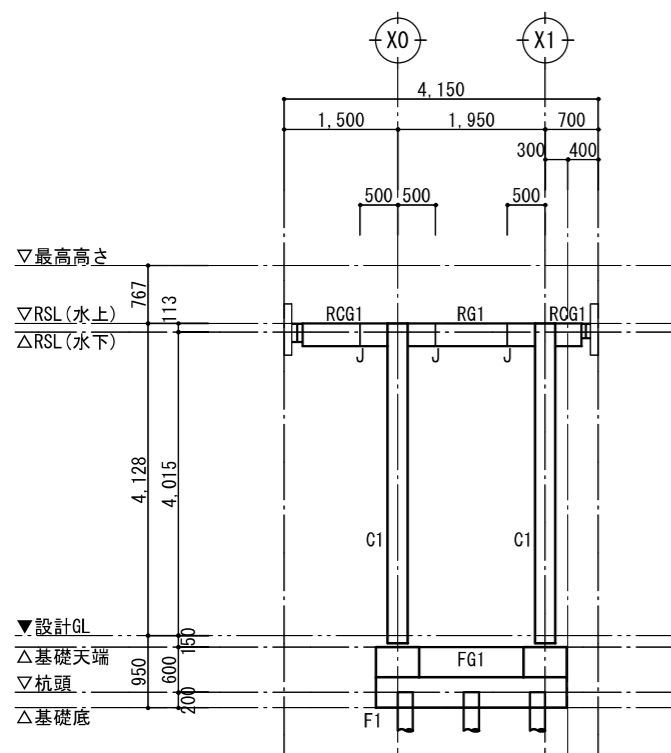
令和8年度 弘前市駅前住宅1期棟
 工事名称 屋上防水・外壁等改修工事
 図面名称 スロープ上家 伏図・柱リスト



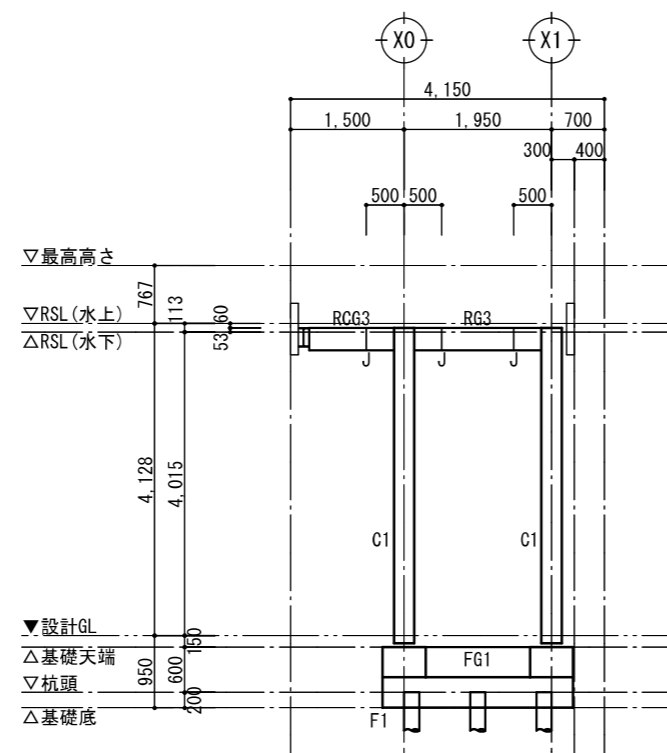
Y2通り軸組図 S=1:100



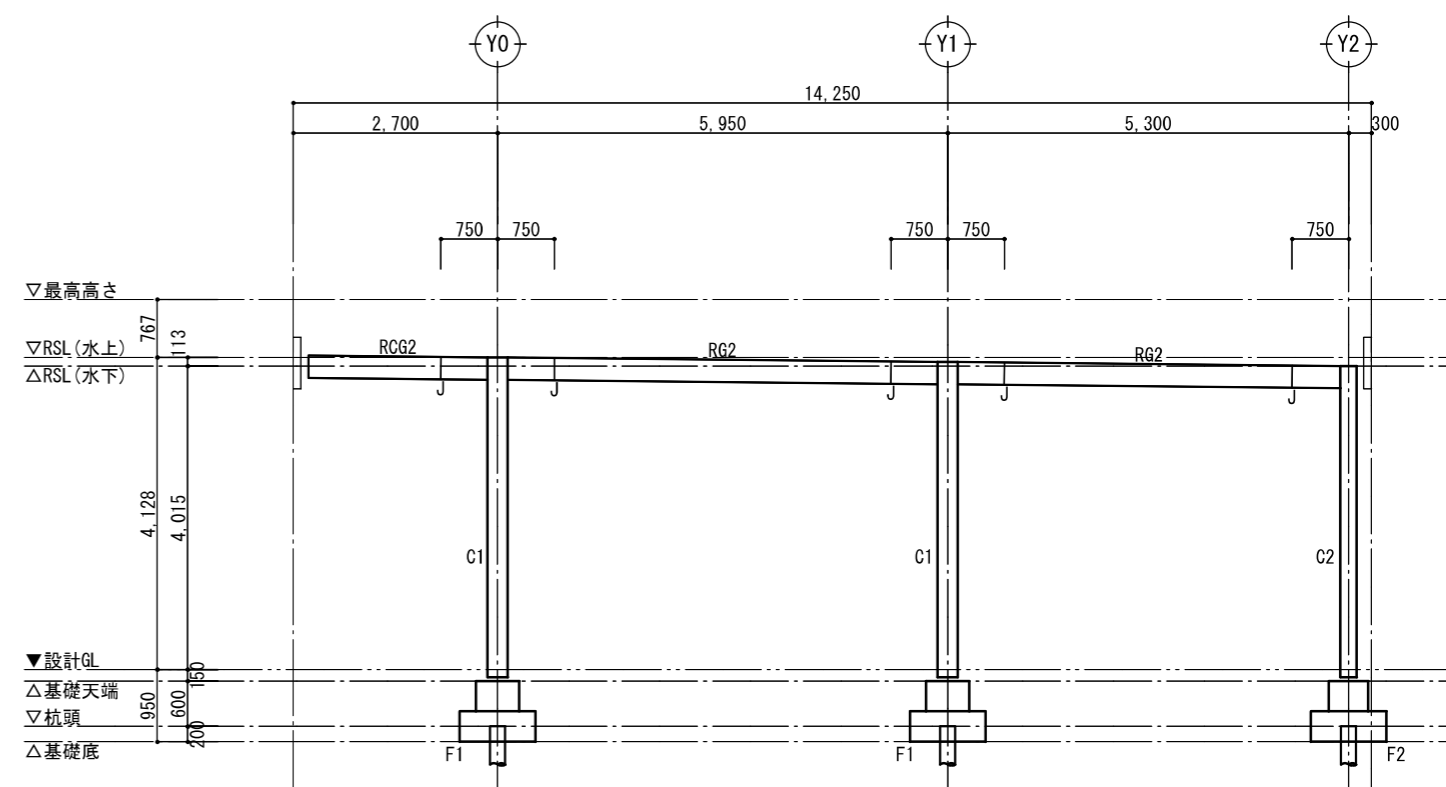
X1通り軸組図 S=1:100



Y0通り軸組図 S=1:100



Y1通り軸組図 S=1:100



X0通り軸組図 S=1:100

株式会社吉川建築設計事務所 吉川 泰尊
 青森県知事登録第1770号
 一級建築士 大臣登録 第359821号
 構造設計一級建築士 交付番号 第10689号

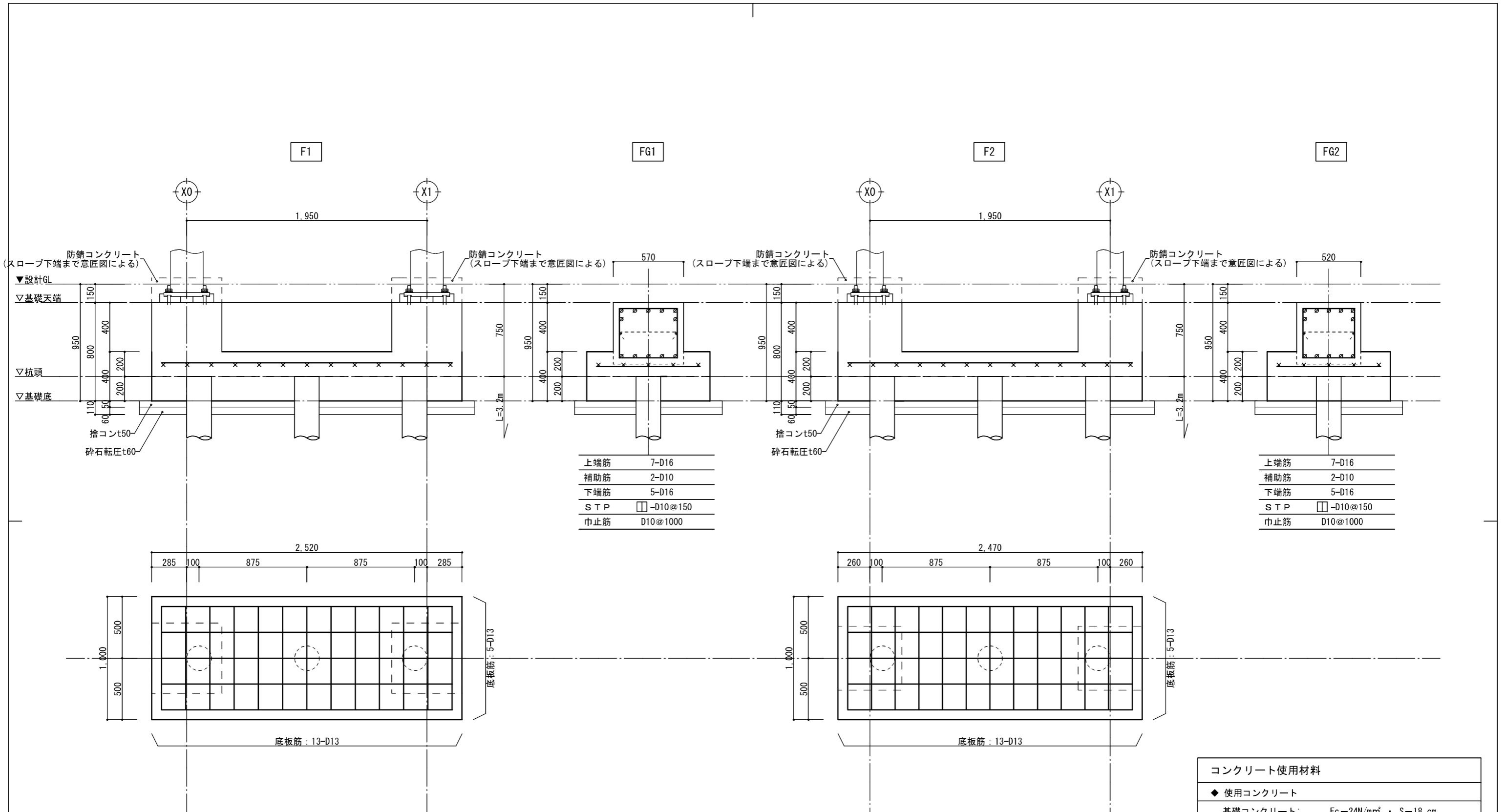
1級建築士事務所 青森県知事登録第A1-1642号
 株式会社 **イクワン** 一級建築士事務所
 門前 孝治 1級建築士登録第213201号

〒036-8353
 青森県弘前市下鞆町11
 TEL 0172-38-1900
 FAX 0172-39-6168

縮尺 1:100
 設計年 2023.11.
 設計者 門前
 検図 承認 門前

令和8年度 弘前市駅前住宅1期棟
 工事名称 屋上防水・外壁等改修工事
 図面名称 スロープ上家 軸組図

NO. S-13



上端筋	7-D16
補助筋	2-D10
下端筋	5-D16
S T P	□ -D10@150
巾止筋	D10@1000

上端筋	7-D16
補助筋	2-D10
下端筋	5-D16
S T P	□ -D10@150
巾止筋	D10@1000

コンクリート使用材料	
◆ 使用コンクリート	
基礎コンクリート:	Fc-24N/mm ² ・ S-18 cm
捨テコンクリート:	Fc-18N/mm ² ・ S-15 cm
◆ 使用鉄筋	
D16以下	: SD295 (重ね継手)
D19以上	: SD345 (圧接継手)

構造
株式会社吉川建築設計事務所 吉川 泰尊
青森県知事登録第1770号
一級建築士 大臣登録 第359821号
構造設計一級建築士 交付番号 第10689号

1級建築士事務所 青森県知事登録第A1-1642号
株式会社 **エクラ** 一級建築士事務所
門前 孝治 1級建築士登録第213201号

〒036-8353
青森県弘前市下鞆町11
TEL 0172-38-1900
FAX 0172-39-6168

縮尺 1:30
設計 門前
設計年月日 2023.11.
検図
製図
承認 門前

令和8年度 弘前市駅前住宅1期棟
工事名称 屋上防水・外壁等改修工事
図面名称 スロープ上家 RC部材リスト

鉄骨大梁リスト				
符 号	部材寸法	剛接合		備考 (JOINT) S=1/30
		フランジ添板	ウェブ添板	
		HTBボルト	HTBボルト	
RG1 RCG3	H-300×150×6.5×9	外PL- 9×150×290 内PL- 9× 60×290	2PL- 6×200×170	
HTB- 4-M20	HTB- 2-M20			
RG2 RG3 RCG2	H-294×200×8×12	外PL- 9×200×410 内PL- 9× 80×410	2PL- 9×200×170	
HTB- 6-M20	HTB- 3-M20			
RCG1	H-298×149×5.5×8	外PL- 9×150×290 内PL- 9× 60×290	2PL- 6×200×170	
HTB- 4-M20	HTB- 2-M20			
CB1	H-248×124×5×8	外PL-12×125×410 内PL- × ×	2PL- 6×170×290	
HTB- 6-M16	HTB- 4-M16			

小梁その他鉄骨部材リスト			
符 号	部材寸法	ウェブ継手板	備考 (JOINT) S=1/30
		HTBボルト	
RB1	H-200×100×5.5×8	GPL-6	
		HTB-2-M16	
RB2	H-248×124×5×8	GPL-6	
		HTB-2-M16	
RCG1 RCG2	H-298×149×5.5×8	GPL-6	
		HTB-3-M16	
タテドーブチ	C-100×50×20×2.3 -@450 ※1800ピッチ毎にダブル ※パラベット部分接合部	G.PL-4.5	
		HTB. 2-M16	
合成床版	合成床版 スーパーEデッキ EZ50-t1.2 (Eco60) コンクリート強度 $F_c=24N/mm^2$ (設計基準強度) コンクリート山上厚 $t=60mm +$ 勾配コンクリート0mm~30mm 鉄筋 $\phi 6-150 \times 150$ ※特記無き限り、焼抜き栓溶接接合間隔は、 X方向 $P_x = 600mm$ Y方向 $P_y =$ スーパーEデッキ合成スラブ設計・施工指針による		

鉄骨使用材料		
材 料	品質 (N/mm ²)	使用 部 位
H T B	S 1 0 T	小梁、大梁接合部
中ボルト	S S 4 0 0	胴縁、壁下地部材
鋼 材	S S 4 0 0	下記以外全て
鋼 材	S T K 4 0 0	鋼管柱
鋼 材	S S C 4 0 0	パラベット C型鋼
鋼 材	S N 4 9 0 C	ダイヤフラム、ベースプレート

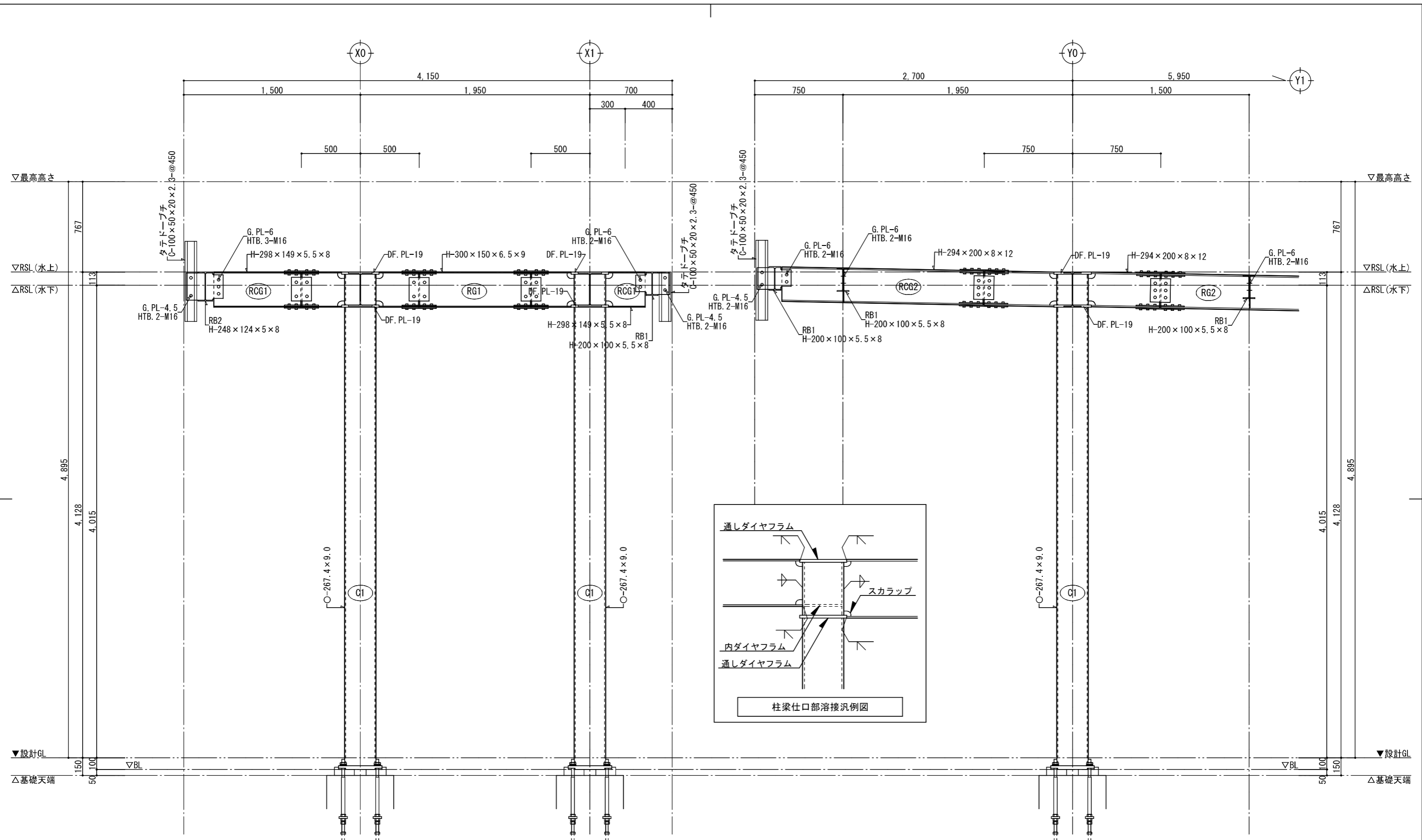
構造
株式会社吉川建築設計事務所 吉川 泰尊
青森県知事登録第1770号
一級建築士 大臣登録 第359821号
構造設計一級建築士 交付番号 第10689号

1級建築士事務所 青森県知事登録第A1-1642号
株式会社 **エクラン** 一級建築士事務所
門前 孝治 1級建築士登録第213201号

〒036-8353
青森県弘前市下鞆町11
TEL 0172-38-1900
FAX 0172-39-6168

縮 尺 1:30
設計年月日 2023.11.
設計 (門前)
製図 (門前)
検図
承認 (門前)

令和8年度 弘前市駅前住宅1期棟
工事名称 屋上防水・外壁等改修工事
図面名称 スロープ上家 鉄骨部材リスト



Y0通り鉄骨詳細図 S=1:30

X1通り鉄骨詳細図 S=1:30

株式会社吉川建築設計事務所 吉川 泰尊
 青森県知事登録第1770号
 一級建築士 大臣登録 第359821号
 構造設計一級建築士 交付番号 第10689号

1級建築士事務所 青森県知事登録第A1-1642号
 株式会社 **イクラン** 一級建築士事務所
 〒036-8353 青森県弘前市下鞆町11
 TEL 0172-38-1900
 FAX 0172-39-6168

縮尺 1:30
 設計 門前
 製図
 設計年月日 2023.11.
 検図
 承認 門前

令和8年度 弘前市駅前住宅1期棟
 工事名称 屋上防水・外壁等改修工事
 図面名称 スロープ上家 鉄骨詳細図